

第2回 APCTP 日本委員会 議事録 (案) :

日時 : 2004 年 11 月 26 日 (金曜日) 午前 10 時 ~ 午後 1 時

場所 : 理化学研究所 (和光研究所) 研究本館 4 階会議室兼セミナー室

出席者 : 菅原 (委員長)、藤川 (日大)、川合 (理研)、河本 (北大)、永長 (東大)、横山 (阪大)、古崎 (理研) (以上順不同)

欠席者 : 小林 (KEK)、佐藤 (東大)、二宮 (基研)、岡 (東工大) (以上は欠席通知のあった委員) ; 土岐 (阪大核物理研)、安藤 (東工大)、福山 (東北大)

事務局 (理化学研究所) : 多田 (川合理論物理学研究室)、永島調査役、岡崎課長代理 (研究調整部国際協力課)、前川課長、藤島係員 (経営企画部企画課)

議事次第 :

報告 :

1. 理研の永島調査役から、平成 12 年(2000 年 8 月)の第一回 APCTP 日本委員会 (添付資料 1 参照) 以来、日本の host institute としての理研の関与、現状および日本委員会で検討していただきたい事項 (添付資料 2 参照) の説明があった。
2. APCTP の Executive Director Swan Kim 氏より 11 月 25 日に送られてきた報告書 (添付資料 3 参照) に基づき、藤川委員から APCTP の設立前後から最近までの現状の報告があった。

議事 :

菅原委員長を議長として、現状認識、今後の方針についての意見の交換、それに続いて議論が行われた。

その中で、APCTP の置かれている状況について、さらに詳しく把握する事、日本側の関与の体制を整える事の 2 点が喫緊であるとの認識が示された。これに基づき今後の行動方針として以下の事項が確認された。

1. 菅原委員長名で、所長の Laughlin 氏に、今後の APCTP の固有の所員、研究の重点、およびメンバー国の委員を含めた国際的な運営について手紙で問い合わせることになった。

2. 12月の月上旬に予定されている Laughlin 氏の東京訪問時に、永長委員と藤川委員がもし同氏の都合がつかなら面会し、今後の APCTP の運営の基本方針に関する所長の考えを聞くこととした。

3. 早急に APCTP への日本側の関わり方について整理する。(別添資料4参照)

4. 上記の活動を踏まえ、次回の APCTP 日本委員会を今年度内(1~2月)を目処に、可能な限り早急に開催する。

5. 今後の APCTP 日本委員会の運営に関して、理研の多田氏に委員会の連絡幹事を依頼し藤川委員と共同して事務連絡等の責任に当たることになった。また、理化学研究所内で理論物理学研究室及び物性理論研究室以外の研究室も APCTP の活動に関与できないか検討することとした。

その他 APCTP に対する日本の関与の仕方、APCTP に期待される役割等に関して話し合われた。

・アジアにおける理論物理学者の交流の核としての APCTP の重要性に関する認識はこれまでと同様である。

・日本委員会としては、今後も理研に membership fee の支払いを含むサポートをお願いしたいということについては、現時点で前回の委員会と変わりはないが、新所長への問合せ結果を踏まえて APCTP の置かれている状況をまず詳しく把握し、その上で日本側の関与のあり方、体制を整える中で再度、検討・確認して行く。

・また、理研から、APCTP の活動方針、日本委員会が APCTP に積極的に関与する意義、日本委員会としての活動方針と体制を明確にした上で、membership fee を理研が負担すべきか、他の研究機関と分担して負担すべきか検討して欲しいという要望が出された。

以上

(添付資料省略)